

保護者各位

「年末お手伝いウィーク」の取り組みについて

南城市立船越小学校
キャリア教育担当

寒い日が続いていますが、いかがお過ごしでしょうか。本校の教育活動への御理解・御協力ありがとうございます。

さて、本校では「目的意識を持ち、様々な人と協働し、課題解決ができる児童の育成」を重点目標に掲げ、キャリア教育を進めています。学校と家庭が連携して取り組めるキャリア教育として「家庭でのお手伝い」が考えられます。年末のお忙しい時期ですが、下記の通り、「年末お手伝いウィーク」を実施したいと思いますので、子どもたちが役割をもって活躍できるようご協力宜しく願いいたします。

1 実施期間

12月26日(木)～1月6日(月)のうち12日間を子どもと相談の上実施する。

2 実施方法

- (1) 自分にできるお手伝いの内容や方法を考え実施する<児童・実施期間中毎日>
- (2) 「実施した内容」と「振り返り」(本紙裏面)を記録する<児童・実施期間中毎日>
- (3) 確認のサインをする<保護者・実施期間中毎日>
- (4) 「お手伝いウィークを終えての振り返り、感想、気づいたこと」をまとめる<児童・最終日>
- (5) 「お手伝いウィークを終えてのおうちの方からのコメント」を書く<保護者・最終日>
- (6) 学級担任へ提出する ※1月7日(火)提出

3 お手伝いのメリット(参考)

(1) 自立する力を養う

自分一人で生き抜く力の基礎を小さい頃から身に付けるには、お手伝いを習慣づけることが最適の方法と言えます。

(2) 責任感や自己肯定感が育つ

周りから「頼られている」「必要とされている」と感じることで、自己肯定感が育ちます。さらに、「ありがとう」「助かったよ」などの声かけをすることによって、感謝される経験と自信が養われます。

(3) 段取り力や行動力が身につく

お手伝いをする中で「先を予測(考え)しながら行動する力」が自然と鍛えられます。どう工夫すれば効率よくできるか、どうすれば早く正確にできるのかなど、考えながら取り組むことで、先を見通す力や思考力が身に付きます。

(4) 親子のコミュニケーションが深まる

お手伝いをさせることによって、子供と向き合う時間が増えます。手間取っていたら、アドバイスする。終わったら感謝の言葉をかける。間違いなく、親子のコミュニケーションは深まっていくでしょう。

4 お手伝いをさせるときのポイント

- (1) 任せたら「手出し・口出し」は(なるべく)しない。できたことに目を向けて、感謝を伝える。
- (2) できないことではなくできたことに対して対等な目線で、「エライねー」ではなく、「助かったよ」「ありがとう」と上から目線ではなく、同じ生活共同者として、やってくれたことへの「感謝」と「素直な気持ち」を表現してみてください。
- (3) 部活動や習い事をしている、もしっかりお手伝いをしてもらう。

5 お手伝いの例 ※お子さんに合ったお手伝いを、できる方法でやってもらいましょう。

○自分の部屋の掃除 ○食事を一緒に作る ○食事を運ぶ ○食器を下げる ○食器を洗う ○くつをそろえる
○洗濯物を干す ○洗濯物をとりこむ ○洗濯物をたたむ ○洗濯物をしまう ○窓ふき ○ごみの分別をする
○ごみを捨てる ○玄関やトイレ、お風呂そうじをする など

